

デフ自転車競技協会 知事表敬訪問



副知事室にて報告する協会

1月16日(金)副知事室にて、(一社)日本ろう自転車競技協会の早瀬憲太郎選手・久美選手が平木静岡県副知事を表敬訪問した。佐野監督及び男子銅メダリストの藤本六三志選手は急きょ欠席となった。静聴協からは小倉事務局長が同行した。県側からは平木副知事、都築スポーツ・文化観光部長、平塚同部部長代理、大石同部参事(スポーツ担当)が出席した。

早瀬憲太郎選手から副知事に対し、大会協力へのお礼、男子メダル初獲得に対する喜びの報告があった。また、各国代表選手ミーティングで寄せられた日本大会の以下の感想を報告した。①サインエールに感動した。見てわかるだけでなく、応援する側としても一体感を持ち応援できるシステムを作り上げたことへの感謝。②自国・他国関係なく応援してくれる日本人の優しさ、おおらかさ。個人中立選手は歓迎されなくても仕方ない部分があると思っていたが、分け隔てなく応援され驚きとともに嬉しかった。③食・温泉のすばらしさ。集団入浴の習慣がない国が多く、選手旅館の温泉に外国人選手が入ったのは開催4日目。そこからは口コミで評判が広まり、人気となった。

早瀬久美選手からは、「ロード・MTB(マウンテンバイク)選手としてだけでなく薬剤師としても活動させていただいた」と多忙な日々を振り返りつつ、県への感謝を述べた。ロード競技とMTB競技は練習方法が異なるため、練習時間が他の選手の倍かかる。さらに薬剤師として、スタッフ含む日本選手団400人が普段飲んでいる薬やサプリメントがドーピングに引っかからないかのチェックもしたことを報告した。

また、2022年9月に静岡県に表敬訪問したウクライナのエリザベス選手から、「Kumi、あなたが選手引退すると聞いた。あなたは4度の出場を果たし、女性デフアスリートの先駆者、レジェンド(訳:伝説)。世界にはスポーツ環境に恵まれない者が多くいる。女性に生まれたというだけで、男性よりもはるかに困難な国もある。デフリンピックを日本で開催したことで、女性選手の



大会ポスターを掲げて

参加が1,000人を初めて超えた。ありがとう」とメダリストに贈られるゆりーとのぬいぐるみを手渡されたエピソードを語った。

副知事からは選手たちの奮闘を労うとともに、自身もデフリンピックを観戦して感動し、子どもたちが力いっぱいサインエールを送っていたのが印象的だったと述べた。

東京2025デフリンピック 静岡県知事特別表彰授与式

1月27日(火)、「東京2025デフリンピック静岡県知事特別表彰授与式」が静岡県庁本館4階特別会議室で開催され、東京2025デフリンピックで優秀な成績をおさめた県内ゆかりの選手7名が表彰された。静聴協からは富口・松本事務局長が同行した。

授与式では、鈴木静岡県知事から知事特別表彰および記念品が贈呈された。受賞者は、女子サッカーの阿部選手、酒井選手、高橋選手、柔道の佐藤選手、水泳の村岡選手、ゴルフの辻選手(代理:袖山日本デフゴルフ協会事務局長)、陸上の安本選手の7名である。

知事からは、「皆さんの挑戦と努力は、多くの県民に感動と勇気を与え、きこえない・きこえにくい子どもたちをはじめ、多くの人に夢と希望を届けた。昨年12月の県政モニターアンケートでは、デフリンピックの認知度が約90%に達しており、今後もさらなる活躍を期待している」と祝辞が述べられた。

受賞者を代表し、女子サッカー日本代表の酒井選手が謝辞を述べ、「デフスポーツの魅力や障害の有無に関わらず共に生きる社会の大切さを、ここ静岡県から発信していきたい」と決意を表し、知事は手話の拍手で選手達を称え、閉式後には記念写真撮影が行われ、和やかな雰囲気の中で授与式は終了した。

今後はデフリンピックのレガシーとして、デフアスリートを講師とする特別授業を県内6校で実施し、機運の継続と理解促進を図っていく。



受賞おめでとうございます



(謝辞)酒井選手

(祝辞)鈴木知事